

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業

第3期中期計画フォローアップ（令和6年度実績）

【政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策研究センター】

1. 令和6年度における活動の概要

（総括）

令和6年度において、①人材育成に関し、コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、行政官研修を実施した。②研究・基盤に関し、共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、プログラムの推進支援等を行った。③共進化に関しては、行政官研修の実施、共進化実現プログラムの運営等に加え、文部科学省内研修と連携したブラウンバッグセミナーの開催、共進化方法論に関する調査研究を実施した。また、④ネットワーキングに関しては、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を文部科学省とともに計3回開催、各拠点の協力を得たSciREX事業に関わった学生や教員をはじめとする関係者のフォローアップ調査の実施、サマーキャンプの実施、SciREXセミナーの開催、政策リエゾンの活用、SciREX事業の活動や成果に関する広報を行った。

①人材育成

（活動の概要）

- ・コアカリキュラム編集委員会の事務局として、SciREXポータルにおいてコアコンテンツを公開しその活用を促進するとともに、事業終了後を見据え、コアコンテンツの活用促進に向け前年度に検討した検索機能強化と全コンテンツを冊子として取りまとめるとの方針に基づき、検索機能強化とコンテンツ原稿の調整・編集作業を行った。
- ・文部科学省との共催で、他の基盤的研究・人材育成拠点及び関係機関と協力しながら、現役行政官等を対象に「科学技術イノベーション政策のための科学」についての知見や方法論の普及を目的とした行政官研修（講義形式：12月16、17、20日と演習形式：1月24日、31日、2月14日の計20時間）を実施し、行政官等16名が修了した。

（KPIの達成状況）

- ・コアカリキュラム編集委員会は開催なし（前年度に委員会が定めた方針に従ってコアコンテンツの調整・編集を進めた）[計画：コアカリキュラム編集委員会及び同WG開催回数：3回程度]
- ・行政官研修の修了者数：16名 [計画：行政官研修の履修者数：15名程度]

②研究・基盤

(活動の概要)

- ・共進化実現プログラム（第 III フェーズ）のプログラムレベルの活動の改善や支援に向けて、文部科学省と協力し、プロジェクトとアドバイザリー委員との意見交換会の実施等の検討・助言を行った。
- ・センター専門職が GiST 教員を研究代表者とする共進化実現プロジェクトの実施に参画した。

(KPI の達成状況)

- ・共進化実現プログラムのプロジェクト件数：7件【計画：共進化実現プログラムの第 III フェーズのプロジェクト件数：7件】

③共進化

(活動の概要)

(①の行政官研修の記載参照)

(②の共進化実現プログラムの運営の記載参照)

- ・行政官と研究者を中心とする議論の場として、文部科学省内研修と連携し SciREX 事業及び関係者を文部科学省内に紹介・周知するブラウンバッグセミナーをランチタイムに4回（5月23日、8月22日、11月7日、1月20日）開催し、行政官の政策ニーズの把握などを行った。
- ・共進化方法論に関する調査研究を委託調査も活用しつつ実施し、その進捗状況等を運営委員会（7月12日、12月13日、3月14日）等で説明した。具体的には、共進化の方法論の検討として、欧州等の海外における科学技術イノベーション政策研究者による政策立案への貢献の最新状況の調査、地域中核大学事業／地域中核パッケージのモニタリング・評価活動に貢献目的のための拠点間ならびに拠点外の研究者を含む研究会の開催、データインフラに関する調査研究を行った。また、過年度成果を含め、アウトリーチの場を積極的に設けることで、事業終了後の構想等に向け、行政官と研究者が政策研究課題を共創的に設定していく方法論の開発検討を行った。
- ・これらの検討の成果を研究・イノベーション学会、日本評価学会等で口頭発表するとともに、文部科学省と5回の勉強会を開催した。また、次期科学技術・イノベーション基本計画に関して検討中の経済団体連合会イノベーション委員会企画部会の求めにより、共進化方法論の検討等の成果を踏まえ、センターの野呂高樹准教授が基本計画の振り返り、EU等諸外国の政策との比較、経済界への示唆等について講演を行った。
- ・センターの野呂高樹准教授による共進化方法論の検討に関する2023年度の日本評価学会第24回全国大会の発表「欧州連合（EU）におけるSmart Specialisationの取組に関する一考察—地域政策と科学技術イノベーション政策の包摂—」が、12月20日開催の同学会第25回全国大会・総会にて同学会奨励賞を受賞した。

- ・データインフラの調査に関しては、SciREX 事業の残りの期間における活動や事業終了後の構想に役立てることを目的に、昨年度の調査にて整理した今後の検討課題や研究会における意見などを踏まえ、有識者による検討会議の開催も含め調査研究を行った
- ・運営委員会のみでは各拠点とのコミュニケーションが十分とは言えないことから、共進化方法論の検討の枠組みで昨年度に設置された拠点ワーキンググループにおいて、引き続き事業終了後の方向性や活動・取組のあり方について検討を進めた。構成は、各拠点から2~3名を登録、事務局は SciREX センターが務めている。今年度の第1回 WG (6月 25 日) では、サマーキャンプの企画、海外事例の調査、データインフラの整備にかかる調査等について議論した。第2回 WG (3月 6 日) では、フォローアップ調査の結果報告、事業終了後に向けた文科省への要望等について議論した。これらの議論の結果を運営委員会に報告した。

(KPI の達成状況)

(再掲分は①、②の記載参照)

- ・共進化方法論の調査の進捗状況をとりまとめ、運営委員会 (7月 12 日、12月 13 日、3月 14 日) 等で報告した。また、成果をとりまとめ関連の学会で公表した。[計画：共進化方法論の報告書のとりまとめ]

④ネットワーキング

(活動の概要)

- ・文部科学省及び SciREX 事業を実施する各拠点・関係機関の実務責任者からなり各拠点・関係機関の取組や役割分担の検討・調整、事業全体についての情報共有等を行う運営委員会を文部科学省とともに計 3 回 (7月 12 日、12月 13 日、3月 14 日) 開催した。
- ・各拠点の協力を得て、政策研究大学院大学において対面形式により、9月 13 日 (金) ~ 9月 15 日 (日) に各拠点及び拠点外の学生並びに拠点の教員等が参加するサマーキャンプを実施した。本学が幹事校となり企画、実施した。昨年度に引き続き、人材育成プログラムの受講生・修了生から構成される実行委員会を設置しプログラムを設計した。全体テーマは「私たちはどう生きるか？－科学技術イノベーション×政策×アントレプレナーシップー」であり、単に行政官の視点からのみではなく、社会起業家として政策立案にかかる視点も提供し、「相談会」では、文科省やその関連機関、そして民間シンクタンクなどのステークホルダーとも交流する機会をつくり、政策立案人材の社会での多様な活躍の場について、知っていただくイベントも実施した。今回のサマーキャンプにおいては、過去からの蓄積を活かしつつ、事業終了後に継承できるような一つのフォーマットを定着させたといえる。
- ・同時に拠点等の教員・研究者や行政官が参加した教職員セッションを開催し、次期科学技術・イノベーション基本計画における検討課題等について検討した。
- ・次年度のオープンフォーラム開催に向け、企画案を検討し、運営委員会で (12月 13 日、

3月14日)議論した。

- ・SciREX事業に関わった学生や教員をはじめとする関係者のフォローアップ調査を行った。第1次調査として、人材育成拠点等においてSciREX事業に関わった人々(カリキュラム修了生、教員、行政官等)を対象としたWebアンケート調査を9月に実施し、意見を集めた。続く第2次調査では、(i)第1次調査結果と前回フォローアップ調査結果(2020年度)との対比分析、(ii)SciREX外部との関係作りについてケース分析、の2つを行い、事業終了後に向けた課題の抽出を行った。調査結果の概要を運営委員会(3月14日)に報告した。
- ・SciREX事業関連のプロジェクトの成果や進捗報告を題材に、政策担当者、研究者及び関係者が率直な議論を行える場であるSciREXセミナーを3回(6月20日(ウェビナー形式)、11月31日(ハイブリッド形式)、3月10日(同))開催した。
- ・RISTEXプログラムサロンに参加し、プロジェクト実施者やアドバイザーとの交流や状況把握を行うとともに、RISTEXプロジェクトをSciREXセミナーで取り上げ広報に協力した。
- ・政策リエゾン制度を維持し、サマーキャンプや行政官研修の講師、コアコンテンツのレビュー、共進化実現プロジェクトの推進、セミナーの企画等でリエゾンを活用した。
- ・SciREX事業の活動や成果に関する情報をウェブサイト、広報媒体SciREX Quarterly(3号発行)を通じて発信した。加えて、これまでのSciREX Quarterlyのすべての号を掲載した印刷物を編集・作成し各拠点に配布した。

(KPIの達成状況)

- ・運営委員会の開催回数:3回(7月12日、12月13日、3月14日) [計画:運営委員会の開催回数:3回]
- ・サマーキャンプへの参加学生数:52名(加えて実行委員7名参加) [計画:50名以上]
- ・SciREXセミナーの開催回数:3回 [計画:4回程度]
- ・政策リエゾンの委嘱総数:31名(年度末の委嘱数) [計画:30名程度]

⑤その他特記事項

特になし。

2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

事業終了後を見据えた計画に対する対応として、以下の活動を行った。

- ①共進化方法論の調査の進捗状況をとりまとめ、運営委員会等で報告した。
- ②共進化方法論の検討の枠組みで、拠点ワーキンググループを設置し同WGにおいて事業終了後のあり方について検討を進めた。
- ③成果のアーカイブ化の円滑な実施等を念頭に、SciREXポータルサイトやコアコンテンツサイトについて、掲載情報の編集整理を進めた。

3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし